

一般質問

学校での感染症予防対策教育



深田 照明 議員
(21政会・加西ともに育つ会)

問 学校での感染症予防対策教育の現状は。

答 感染症予防対策として、養護教諭や担任による指導、教育や、児童生徒の保健委員会で手洗い指導の呼びかけをしたり、予想以上に手に細菌が残っている写真を手洗い場に掲示する

など、手洗いの大切さを実感できるような工夫をしています。しかし、完全な手洗いは難しく、手洗いチェッカーの活用は有効ですが、学校での常備には至っていません。

問 手洗いチェッカー使用について。

答 正しい手洗い方法を実感して理解させるには年間複数回、手洗いチェッカーを用いた指導をすることも効果的であると考えます。今後は、新南部学校給食センターに導入予定の手洗い

チェッカーを活用しながら、子供たちが自分の体は自分で守るという意識を持てるよう、指導に努めたいと考えます。

問 病院と協力した感染症予防について。

答 感染症の認定看護師が、学校で正しい手洗いを指導しています。また、学校への手洗いチェッカー貸し出しも可能です。

■その他の質問項目

- ・ 通学路の安全整備状況
- ・ 加西病院の感染症対応

地域主体型交通について



北川 克則 議員
(令和新風加西)

問 どのような種類があるのか。

答 大枠では3つの形態があります。まず、路線定期運行は、宇仁郷まちづくり協議会が予定されている運行形態で、あらかじめ決まった時刻、ルートを実行する

ものです。次に、路線不定期運行は、あらかじめ決まったルートを実行する形態です。最後に、区域運行は、決まったルートは定めず、特定の区域内で予約に応じて運行する形態です。

問 導入に際しての行政サイドの支援内容について。

答 ニーズを把握するためのアンケートの収集は、地元にお願いしていますが、集計作業や分析などは支援をしています。申

請をするための書類作成や、公共交通活性化協議会での承認などの手続についても支援します。導入後は、順調に運行できるように、補助金の支出や助言等を行いながら、持続可能な交通の確保に向けて支援をします。

要望 第6次加西市総合計画に、公共交通の再編と地域主体型交通の推進を盛り込んでいただきたい。

■その他の質問項目

- ・ 高齢者福祉について

助産師の産後ケアについて



佐伯 欣子 議員
(21政会・加西ともに育つ会)

問 加西病院の産科がなくなった後の産後ケアの現状は。

答 過年度より年間約50～60例の実績があり、令和2年度も同数を見込んでいます。看護師兼任の助産師3名の体制です。

問 市民の近隣病院での産後ケアの受け皿について。

答 産後ケア事業の受け皿は、加西病院に加えて市内1カ所、近隣2カ所の体制をとっています。平成28年の事業開始以降20名が利用され、9割が加西病院、1割が近隣病院の利用です。

問 関係機関等との連携について。

答 民生児童委員の訪問による顔つなぎや情報共有、検診での支援や産後ケア事業への橋渡し、また、加西病院勤務の助産師資格を持つ保健師の健康課への配置による連携強化等、産後も安心して子育てができる支援体制の確

立を図っています。

問 加西病院における産後ケアの姿は。

答 高度急性期病院が分娩を担い、加西病院は産後ケア、妊娠初期の検診を担う地域多機能型病院としての機能を果たすことが責務だと考えています。

要望 加西病院の産後ケアは近隣の中でも実績と強みを持っている。これから妊娠、出産、子育てされる女性が、安心して子供を産み育てられる優しいまち加西市として充実させていただきたい。